

保健センターだより

申請・問い合わせ先 保健福祉課健康推進係 (32)2554



保健師
加戸 容子さん

梅毒の感染が広がっています!

梅毒は主に性行為によって感染し、感染に気がつくにくいことから治療の遅れや感染拡大につながりやすい危険な感染症です。全国的に梅毒の届出が急増しており、長野県においても平成25年に10件だった届出数は、平成30年には41件と急激に増えています。

梅毒とは

梅毒は「梅毒トレポネーマ」という細菌による感染症で、主に性行為によって人から人へ感染します。梅毒に感染すると痛みのない潰瘍が感染部位に形成されます。治療せずにいると全身に赤い発疹が現れ、治療しないまま数年から数十年経過すると血管や神経の障がいなど、全身に多様な症状をきたし、場合によっては死に至ることもあります。

また、妊婦が感染すると、早産や死産など重篤な異常につながる可能性があります。

感染しない・させないために

●コンドームを適切に使用しましょう

梅毒感染の多くは性的接触によるものです。オーラルセックス(口腔性交)でも感染のリスクがあります。性行為の前からコンドームを着用することで、感染のリスクを下げることができます。また、多数の相手と性的接触を持つと、それだけ感染する(または感染させる)リスクを高めることとなります。

●早めの受診を心がけましょう

今までなかったしこりができた、全身に赤い発疹が出てきたなど、梅毒を疑う症状がある場合には早めに医療機関を受診しましょう。早期に治療を開始することで重症化や感染の拡大を防ぐことができます。

保健福祉事務所(保健所)で無料検査を実施しています

佐久保健福祉事務所では性感染症(エイズ・梅毒・クラミジア)について、匿名・無料で検査を受けることができます。詳しくは下記にお問い合わせください。

佐久保健福祉事務所：TEL 0267 (63) 3164

12月の定例健康相談(身体・心の相談)は

日時 12月16日(月) 午前10時30分～11時30分

場所 保健センター(役場1階東玄関側)

Kids generation

10カ月健診時に撮影した写真を2カ月に分けて、紹介しています。



おいでよ児童館へ!

子育て中のお母さん、お父さんへ

子どもたちが遊び、親たちも楽しめるそんな交流の場があります。親子で手をつないでぜひ遊びに来てください。

※「ひだまりっこ」は、手あそび、絵本の読み聞かせ、季節に合った活動などを取り入れ、親子で楽しく遊び、気軽に交流する事業です。時間 午前10時30分～(詳細はお問い合わせください)



ボール・ふうせんであそぼう(東原児童館)

12月の行事予定

「ひだまりっこ」の予定

大林児童館

12月5日(木)

《幼児体操》

マットでゴロゴロしたり、走ったりジャンプしたりして、親子で楽しく体をうごかしましょう。

12月9日(月)

《リズムあそび》

ピアノの音を聞きながら、親子で一緒に楽しみましょう。

12月12日(木)

《クリスマス制作》

かわいいクリスマス飾りを作りましょう。

12月23日(月)

《クリスマス会》

サンタさんからプレゼントあるかな?



東原児童館

12月3日(火)

《クリスマス制作》

リースを作りましょう。

12月6日(金)

《しんぶんあそび》

しんぶんしプールで遊びましょう。

12月10日(火)

《幼児体操》

マットでクマさん歩きやジャンプして元気に体を動かしましょう。

12月17日(火)

《リズムあそび》

歌を歌ったりリズムに合わせて手拍子をしよう。

12月20日(金)

《クリスマス会》

ホットケーキを作ってみるなど食べましょう。費用 1家族300円



※詳細は各児童館へお問い合わせください。
※活動によっては、持ち物などが必要な場合があります。

先生から

今月のひだまり

今回は東原児童館の小宮山先生です

「子どもたちとの出会い」

台風第19号は、ここ塩野にも多量の雨をもたらしました。各地の台風被害の傷跡は、まだまだ深刻なようです。数十年に一度と言われる「特別警報」が発令されたときは、児童館で元気な子どもたちの笑顔に出会ったときは、本当にうれしかったです。年寄りの私は時々思います。子どもたちの表情はこの世の中を鏡のように映し出しているのではないかと。子どもにのぞく世の中は、まず家族です。それから学校、児童クラブ、近所のおじさん、おばさん、お兄さん、お姉さん、友だち...そして僕ら職員もそのうちの一人です。やがて子どもたちは、世の中(世界)をさらに広げていきます。困難が待ち受けているかもしれない。それでも、それを乗り越える力になるのはやはり家族に愛され、大切にされた子ども時代の体験な

のではないのでしょうか。言い換えると「自分を中心に世界は回っている」という体験が大切であり、それらを味わう時期があったからこそ「これは錯覚なのだ」と自覚もできるということなのです。時々こうも思います。子育てに追われ、子どもに振り回されるそのときが一番幸せな世界なのかもしれない。そしていつまでも、一人ひとりの子どもたちが大切にされる世の中であってほしい、子どもたちの笑顔に映し出される世界であってほしい。そう思いつつも「きっと子どもたちに振り回されるんだらうな」とぼやきながら今日も仕事に出かけます。



問い合わせ先

- 町民課子ども係 (32) 3114
- 東原児童館 (32) 5769
- 大林児童館 (32) 0154